

認知機能不全症候群

評価ツール

監訳：齋藤 弥代子(麻布大学)、久世 明香(麻布大学)



認知機能不全症候群(CDS:cognitive dysfunction syndrome)は、人のアルツハイマー病に似た脳の不可逆的な退行性変化であり、加齢に伴って生じる機能障害を上回るレベルで、進行性の認知機能の低下を示すことを特徴とします。CDSはゆっくり発症し、治療や管理が難しい疾患で、8歳以上の犬の14%が罹患していると推定されています。

DISHAAとは? DISHAAは、飼い主様とその担当獣医師が犬の脳機能を評価するのに役立ち、CDSの診断基準となり得るツールです。

D DISORIENTATION 見当識障害	I SOCIAL INTERACTIONS 社会的交流	S SLEEP/WAKE CYCLES 睡眠/ 覚醒サイクル	H HOUSESOILING, LEARNING AND MEMORY 粗相 学習と記憶力	A ACTIVITY 活動性	A ANXIETY 不安
-------------------------------------	--	--	--	-----------------------------	---------------------------

回答年月日: 年 月 日

飼い主様氏名:

愛犬名:

年齢:

性別: オス メス

避妊・去勢: 未 済

犬種:

体重:

BCS(1-9):

現在の食事:

服用中の薬の種類・用量・投薬頻度:

※ご記入いただいた個人情報は、かかりつけの獣医師が診断をする際のみ使用いたします。

裏面の高齢犬向け認知機能評価シートにスコアを記入してください。
DISHAAの6個の大分類のうち、複数の分類にわたって軽度以上(1以上)のスコアがつく場合には、愛犬の脳の老化について、獣医師にご相談ください。

DISHAA 認知機能評価シート

8歳以降に表れてきた、あるいは進行してきた徴候について に該当するスコア(数字)をご記入ください。
(8歳までにその傾向があったが、それ以降の変化がない場合は0と記入してください。)

0=なし 1=軽度(まれにある) 2=中等度(ときどきある) 3=重度(最低でも1日1回、あるいは常にある) | スコア

		スコア ▼
見当識障害	隙間に挟まる、物をよけることができない、ドアの蝶番側 <small>ちょうつがい</small> を通ろうとする	
	壁、床、空中などの何もないところをぼんやり見つめる	
	馴染みのある人や動物を認識できない	
	家の中や庭で迷子になる	
	視覚刺激(光景)や聴覚刺激(音)に対する反応が鈍い	
社会的交流	以前よりも来訪者や家族、他の動物に対して、イライラしたり、怖がったり、攻撃するようになった	
	近づくれたり、挨拶したり、可愛がられたり、撫でられることに対する興味が減った	
睡眠/覚醒サイクル	夜間に、ウロウロと歩く(常同歩行)/落ち着きがない/あまり眠らない/目を覚ましている	
	夜間に、鳴いたり吠えたりする	
粗相、学習と記憶力	新しいことを覚えるのが難しい、あるいは、既に習得しているコマンドや名前、作業への反応が鈍い	
	家の中のトイレ以外の場所に排尿や排便をする、あるいは外出したいという意思表示が減った	
	犬の気を引くことが難しくなった、注意散漫である、集中力が減った	
活動性	探索をしたり、おもちゃや家族、その他の動物と遊ぶ頻度が減った	
	無目的な歩行(常同歩行)や徘徊などの活動が増えた	
	旋回運動、咀嚼、舐め、ぼんやりと宙を見るといった反復行動を示す	
不安	飼い主から離れた際の不安が増えた	
	視覚刺激(光景)や聴覚刺激(音)に対して過敏になったり、怖がるようになった	
	場所や環境(例:新たな環境、外出など)を怖がる事が増えた	
トータルスコア 上記18項目のスコア(数字)の合計を記入		

すべての項目への記入後、ここに書かれた徴候の原因をさぐるために、獣医師が身体検査などの推奨される検査を行います。
愛犬が加齢に関連した様々な健康問題を有する場合でも、それと並行してCDSが起きている可能性もあります。

トータルスコア
4~15 : 軽度CDS
16~33 : 中等度CDS
34以上 : 重度CDS